

行政事業レビューシート (文部科学省)

予算事業名	競技力向上ナショナルプロジェクト	事業開始年度	平成21年度	作成責任者		
担当部署	スポーツ・青少年局	担当課室	競技スポーツ課	競技スポーツ課長 芦立 訓		
会計区分	一般会計	上位政策	我が国の国際競技力の向上			
根拠法令 (具体的な 条項も記載)	—	関係する計 画、通知等	スポーツ振興基本計画 (平成12年9月13日策定、平成18年9月21日改定)			
事業の目的 (目指す姿を簡 潔に。3行程度 以内)	トップレベル競技者が世界の強豪国に競り勝ち、確実にメダルを獲得するために、多方面からの専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に実施する(チーム「ニッポン」マルチ・サポート事業)とともに、オリンピック競技大会で活躍する次世代のアスリート育成に向け、競技団体の強化活動全般を統括するナショナルコーチ等を配置(次世代アスリート特別強化推進事業)し、競技者及び競技団体のレベルアップを図る。					
事業概要 (5行程度以 内。別添可)	(1)チーム「ニッポン」マルチ・サポート事業 トップレベル競技者に対して、情報の収集、スポーツ医科学・栄養学等の活用、用具・機器・トレーニング方法の開発などの多方面からの専門的かつ高度な支援を戦略的・包括的に実施する。 (2)特別強化2016プラン推進事業 オリンピック競技大会でメダル獲得が期待できる競技団体について、強化活動全般を統括するナショナルコーチを配置し、競技団体のレベルアップを図る。					
実施状況	(1)チーム「ニッポン」マルチ・サポート事業 一般競争入札公募を行い、独立行政法人日本スポーツ振興センターが応札・受託。国立スポーツ科学センターにおいて事業を実施。21年度は8競技種目について、特別支援を実施。 (2)特別強化2016プラン推進事業 企画競争公募を行い、財団法人日本オリンピック委員会が受託・実施。21年度は14競技団体についてナショナルコーチを配置。					
予算の状況 (単位:百万円)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度要求
	予算額(補正後)	—	—	530	2,412	486
	執行額	—	—	530		
	執行率	—	—	100.0%		
	総事業費(執行ベース)	—	—	530		
自己点検	支出先・ 使途の把 握水準・ 状況	・定例的に事務担当者と面接をし、事業の進捗状況と経費支出状況の報告を聴取した。 ・委託先団体から提出される委託事業完了報告書、成果物により事業内容や経費の執行について確認を行った。 ・経費については、委託事業完了報告書に添付される証拠書類(賃金出納簿、見積書、納品書、請求書、領収書等)により適切な執行がなされているか検査するとともに、事業の内容、目的との整合性について確認を行った。				
	見直しの 余地	・研究開発の成果の社会還元を更に促進するため、より効果的な実施方法について検討を行う必要がある。 ・外部有識者による評価委員会を設置し、事業のより効果的な実施について検討を行う必要がある。 ・より多くの団体から応募があるよう、公募期間の確保や公募条件及び方法等の見直しを行う必要がある。				
予算監 視の・ 効率 見率 化	1. 事業評価の観点： この事業は、トップレベル競技者のメダル獲得や競技団体のレベルアップを図ることを目的とした事業であり、事業の質の向上という観点から検証を行っている。 2. 所 見： ①我が国の国際競技力の向上を図るための必要な経費である。 ②この1年間の事業執行実態を踏まえつつ、自己点検欄にもあるとおり、外部有識者による評価を活用することなどにより、事業の質的向上により一層努めるとともに、予算積算単価の見直しなどにより、予算を縮減すべきである。					
補 記	※(1)チーム「ニッポン」マルチ・サポート事業は22年度限りで廃止のため、23年度要求については、(2)特別強化2016プラン推進事業についてのみ縮減を図っている。 【スポーツ振興基本計画】 Ⅱ スポーツ振興施策の展開方策 3 我が国の国際競技力の総合的な向上方策					

競技力向上ナショナルプロジェクト

文部科学省
530百万円

職員旅費その他 0.1百万円を
含む

スポーツ振興基本計画(平成12年9月策定)に掲げる政策目標の一つである「早期にメダル獲得率3.5%」の実現に向けて、平成20年度から『チーム「ニッポン」マルチ・サポート事業』を実施し、トップアスリートに対する多方面からの高度な支援を総合的に行ってきた。また、平成21年度から、オリンピックにおいてメダル獲得が有望視される14競技種目においてナショナルコーチを設置し、国際競技力の向上を図ってきた。世界の強豪国がメダル獲得に向け、多額の国家予算を投じてさまざまな方策を講じている中、我が国としても、トップレベル競技者に対するマルチ・サポート体制の拡充とナショナルコーチ制度を充実させ、国際競技力の更なる向上を図る。

【一般競争・委託】

A. 独立行政法人
日本スポーツ振興センター
303百万円

【チーム「ニッポン」マルチ・サポート事業】

柔道、男子体操、フェンシング、レスリング、競泳、トライアスロン、カヌー、トランポリンの8種目について、大会や合宿等への帯同、情報収集、戦術・戦略分析、用具・器具の開発、リハビリ支援等を実施し、競技力向上を多角的に支援

【公募・委託】

B. 財団法人
日本オリンピック委員会
227百万円

【再委託】

C: 中央競技団体(14団体)
207百万円

【特別強化2016プラン推進事業】

柔道、レスリング、体操、陸上競技、バレーボール、サッカー、フェンシング、バドミントン、テニス、ウェイトリフティング、自転車、セーリング、ホッケーの14競技について、強化活動全般を統括するナショナルコーチを配置

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

A.独立行政法人日本スポーツ振興センター			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
人件費	スタッフ賃金	178			
旅費	合宿・大会等帯同旅費	65			
消耗品費	特別支援活動関連消耗品、研究開発関連消耗品	15			
設備備品費	特別支援活動関連設備備品、研究開発プロジェクト関連設備備品	13			
消費税相当額	人件費、国外	10			
諸謝金	講師・ディレクター謝金	8			
借損料	OA機器リース、携帯電話レンタル	6			
一般管理費		4			
その他	レンタル機器保険料、通訳費用、報告書印刷等	4			
計		303	計		0
B.財団法人日本オリンピック委員会			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
再委託費	14競技団体にナショナルコーチ及びサポートスタッフの賃金・謝金・保険料	207			
旅費	ナショナルコーチ遠征旅費	17			
印刷製本費	ナショナルコーチ認定書、報告書	2			
その他	スタッフ賃金、評価委員会謝金、事務用品等	1			
計		227	計		0
C.財団法人日本フェンシング協会			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
賃金	ナショナルコーチ及びサポートスタッフ賃金	16			
謝金	アシスタントナショナルコーチ謝金	3			
保険料	ナショナルコーチ及びサポートスタッフ社会保険料	3			
計		22	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。使途と費目の双方で実情が分かるように記載)

「複数支出先ブロック」の支出先一覧(上位10機関)

C: 特別強化2016プラン推進事業

	支出先	支出額(百万円)
1	財団法人日本フェンシング協会	22
2	財団法人日本レスリング協会	22
3	財団法人日本バドミントン協会	18
4	財団法人セーリング連盟	18
5	財団法人全日本柔道連盟	17
6	財団法人日本テニス協会	16
7	財団法人日本サッカー協会	16
8	財団法人日本自転車競技連盟	15
9	社団法人日本ウエイトリフティング協会	14
10	社団法人日本ホッケー協会	14
⋮	その他	35
合計		207